

# 大学コンソーシアム石川

The logo for the University of California (UC) is displayed, featuring the letters "UC" in a stylized font, with a small upward-pointing arrow above the "C".

シアム石川が連擔強化の中核となる方向性を鮮明にします。

大学コンソーシアム石川は、いま以上に広く利用できる機関に変わりますので、高等教育機関だけでなく、自治体や経済団体、一般市民の方々には、もっ

このほかの報告者  
山田政喜氏(金大大学教育開発  
支援センター准教授) 水元明彦  
氏(教育支援センター) 山田智  
子氏(同) 森井喜氏(金大総合メ  
ディア基礎センター助教) 金大  
放送ゼミ・金沢英大、石川工専  
建築費観論ゼミの学生たち

「戦略GPによって変わる新しい  
大学コンソーシアム石川の全体像」

古畑徹氏（同教務学生専門部会長、金大人間社会研究城教授）

の連携強化です。従来から行われてきた地域の課題解決方法を研究する大学のゼミへの支援を拡大し、複数ゼミ連携による研究を奨励、支援します。このほかにも、地域に必要な人材探しにも利用できる人材データベースを作成したり、高校生の大学研究室インターンシップ事業も始めるなどし、大学コンソーシアム石川が連携強化の中核となる方向性を鮮明にします。

## 「戦略的大学連携支援プログラムの意図」

この結果を考えると、大学は

企業ニーズに依って教育を改善し、学生に実践的なキャリア教育を実施する必要があるとあります。企業側も大学に人材輩出のメッセージを送っていただきたいと思っています。

企業はまた、大学に社会人向け教育も期待しています。大学は「社会の教育機関」として求められているのです。大学側はICT(情報通信技術

衛)などを活用してニーズに応え、企業にはインターンシップの受け入れや資金援助などを求めていく。こうした連携が理想的ではないでしょうか。

地域との関係でいえば、地域は住民の教養の向上だけでなく、シンクタンクとしての役割、学生による地域活性化への貢献などを大学側に求められています。教育だけではない、地域に対する具体的な行動を期待しているのです。

大学間の連携は進んでいます。大学側はこれから、企業ニーズを反映し、地域学の能動的学習による地域貢献を行わなければなりません。企業に、地域に成果を還元する。それが戦略的大学連携支援事業の鍵柄につながるのです。

## パネル討議で6氏

サボートしていく考えを示しました。伊藤健二氏（慶応大学大学院准教授）は「石川の体制は産学官連携を十分に網羅できる」と発展に期待を寄せ、田中則男氏（北國新聞社論説副委員長）は「コンソーシアムには地域を変えていく可能性を感じる」と語りました。



大学コンソーシアム石川への期待を語る出席者

4月12日、しいのき迎賓館で業務開始

大学コンソーシアム石川は2006年4月、県内の大学、短大、高専の19高等教育機関、県、全市町、12の経済団体、1国際機関で発足しました。単位互換による教育の交流、地域社会・産業の連携促進を目指し、県庁広

坂戸市内に事務局を置き、金沢・いわかまちなかキャンパス、出張オープンキャンパス、地域貢献型学生プロジェクト、地域課題研究ゼミナールなどの事業を展開してきました。4月10日に県庁舎跡の新しいき迎賓館に移

転し、同月12日に業務を開始します。  
会長の中村信一（金大）学長は、大子  
コンソーシアム石川が移転によって  
生まれ変わると強調し、「もっと多く  
の方々に知って、利用していただき  
たい」と呼び掛けました。